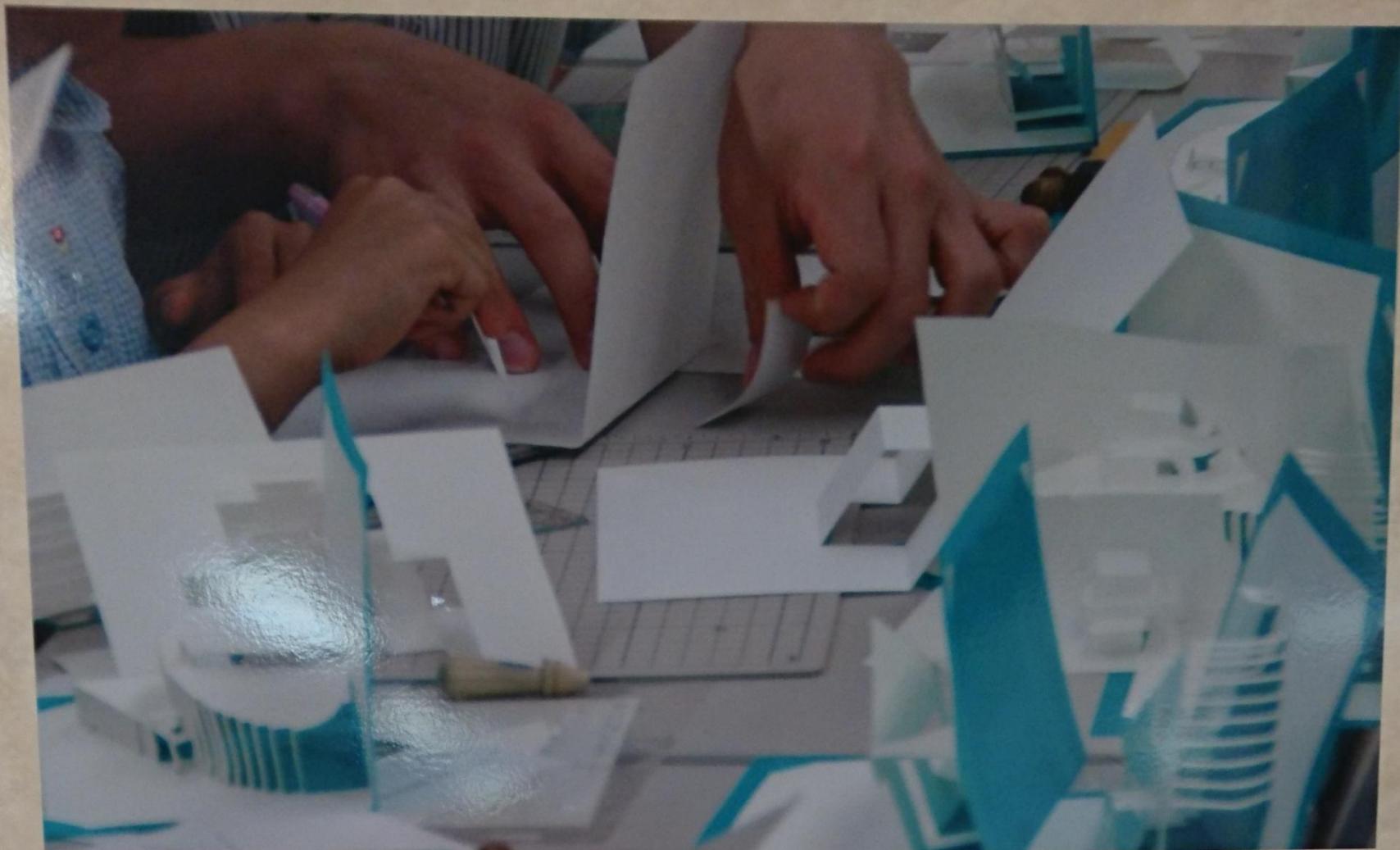


ペーパークラフトではぐくむ空間認識力

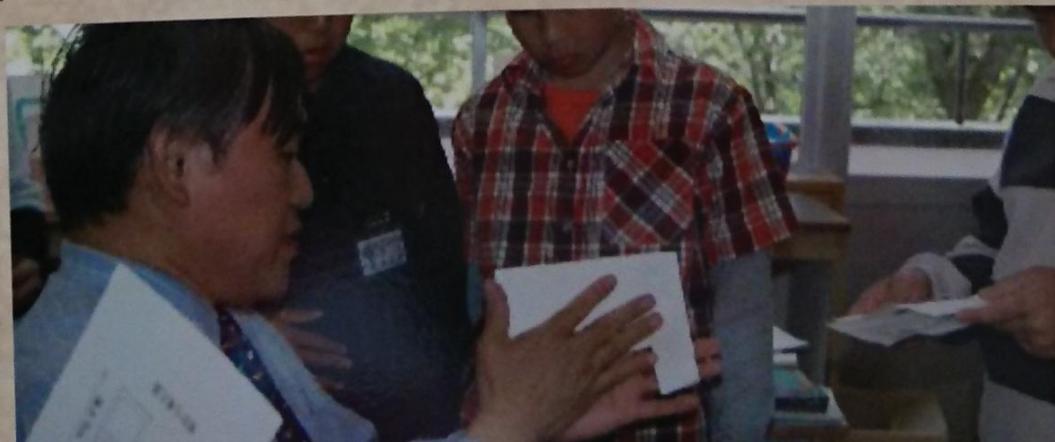
新潟大学教育学部

山田 和美



ペーパークラフトには空間認識力の素地を養うための可能性が秘められています。魅力的な作品も多く、教材として使用可能なものも多くあります。空間図形を教える際には、静止画として提示するだけではなく、動的な扱いが可能な教材を用いることが必要であると感じています。そこで、ペーパークラフトは児童・生徒の空間認識力を育てるには有効な教材であると再認識しています。ペーパークラフトで立体的なものを組み立てるとき、児童は作品の空間的な動きをよく観察します。立体を動かしながら、動的で、連続的な立体の動きをイメージすることが徐々にできるようになります。このようにして彼らは自然に、空間認識力を身につけていきます。ペーパークラフトを授業に取り入れ、知的好奇心を刺激すると、彼らは夢中になって学習に取り組めます。ポップアップカードやしかけ絵本を何回も開閉し、メカニズムを考えることは、対象を動的にイメージし数学的に科学する力をはぐくむために有効です。

山田による出前授業、新潟大学の公開講座、SPP、地域のコミュニティースクールなどでの活動の様子や、「折り紙建築」作家の木原の作品を展示し、「ペーパークラフトではぐくむ空間認識力」の世界を提案させていただきます。「中央教育審議会初等中等教育分科会でも指摘されているように、『図形に関する学習は、右脳の働きを活発にすると言われる。・・・。特に、立体図形に対する認識力を小学校段階から培いたい。』



折り紙建築設計図

by 木原隆明

